

秋雨前線や台風の接近に伴う 大雨に対する被害防止対策について

気象災害対策H27-11
平成27年9月18日
中央普及支援センター

I 被害防止対策

〈要旨〉

- 1 倒伏した稲では、穂発芽等による品質低下を防ぐため、ほ場の排水に努めるとともに、刈り遅れとならないように適期収穫に努める。
- 2 園芸品目は、長期の停滞水によって根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良、落葉等の生理障害を生じやすいため、草勢維持や病害対策に努める。
- 3 畜産では、畜舎周囲の排水路の点検整備や排水路の確保に努め、飼料作物では、収穫間近のものは収穫を見合わせ、圃場の排水対策や変敗防止の対策を講ずる。

〈詳細〉

1 水 稲

- (1) 河川からほ場や用排水路に土砂が流入し、水路を阻んでいる場合は、土砂を排除し、用排水路を確保する。
- (2) 成熟期に達しているものは胴割粒の発生が懸念されるので、速やかに刈取りをする。
- (3) 倒伏して穂が地面についているものは、穂発芽が発生しやすいため、排水溝を整備し速やかな排水に努める。
- (4) 倒伏した稲で収穫時期が近いものは、これ以上登熟が望めないので、できる限り早く収穫する。
- (5) 倒伏や穂発芽等により米の品質低下が明らかな圃場では、被害を受けていない圃場とは分別して収穫・乾燥を行う。
- (6) 収穫後4時間以内に乾燥機に搬入し、直ちに通風乾燥を行う。
- (7) 乾燥作業は通風乾燥から始め、徐々に加温し穀温が40℃以下で乾燥作業を実施する。特に、急激な乾燥は胴割れ等の品質低下の危険性が大きいので行わない。

2 大 豆

- (1) 浸・冠水したほ場では、ほ場内や排水溝の停滞水を無くすため、できるだけ早く溝の土砂流入の除去や溝の手直しを行い、必要であれば新たな排水溝の設置を行なう。

- (2) 長期の滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、速やかな排水対策を徹底する。

3 野菜・花き（トマト、ねぎ、キャベツ、だいこん）

野菜・花きは長期の停滞水に弱く、根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良を生じやすい。また、トマト、ねぎ、キャベツ等は病害による品質低下、だいこんでは、岐根が発生しやすいので、速やかに以下の対策を実施する。

- (1) 冠・浸水したほ場では、根腐病、疫病、軟腐病等の被害が発生しやすくなるので早急に防除を実施する。また、茎葉が泥水等で汚染された場合は、適量の範囲内で洗い流すように防除する。
- (2) 被害状況に応じて速効性肥料の施用や液肥の葉面散布、果菜類では摘果などにより草勢の回復に努める。

4 果 樹（なし、りんご、ぶどう、かき、くり、いちじく 等）

- (1) 長期の停滞水による根の機能低下が品質低下や果実裂果、生理落葉等の生育障害を招くので、排水対策を最優先する。
- (2) 落葉性病害や果実腐敗性病害の発生が懸念されるので、天候回復後の防除を徹底する。

5 畜産・飼料作物

- (1) 畜舎へ雨水等が入りこまないよう、畜舎周囲の排水路の点検整備や排水路の確保を行う。また、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- (2) トウモロコシ等の飼料作物で収穫時期を迎えているものは、降雨による養分損出や高水分による品質低下の恐れがあることから、収穫を当分見合わせる。
- (3) 畜舎が冠水した場合は、天候が回復次第、泥の排除、水洗を徹底し、乾燥させた後消毒を行う。機械器具等も洗浄、消毒を徹底する。
- (4) 衛生環境の悪化により疾病等の発生が懸念されるので、家畜の観察を徹底し、異常が認められる場合は、すみやかに獣医師、家畜保健衛生所に連絡する。
- (5) 飼料作物の長期滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、滞水した圃場は排水溝を掘るなど、すみやかな排水対策に努める。
- (6) 泥を被った圃場の飼料作物は、基本的には刈り取り廃棄する。軽度の場合でも調製後に変敗するので、給与の際十分注意する。
- (7) 冠水などで土砂の混入した牧草をサイレージ調製すると劣質化し易いので注意する。やむを得ずサイレージにする場合はギ酸などの有機酸を添加する。